

水稻の作柄に関する委員会（平成22年産第2回）議事要旨

1 開催日時：平成22年10月4日（月） 13:30～15:22

2 開催場所：農林水産省大臣官房統計部第1会議室

3 出席者：【委員】

染英昭座長、黒田栄喜委員、中園江委員、長谷川利拡委員、
平澤正委員、前田修平委員、丸山幸夫委員、山岸順子委員

【事務局】

生産流通消費統計課長 ほか

4 議事

平成22年産水稻の9月15日現在における作柄概況及び次期調査の実施に当たっての留意事項について

5 議事概要（○：委員からの発言）

事務局から平成22年産水稻の9月15日現在における作柄概況調査結果について説明後、次期調査（10月15日現在）の実施に当たっての留意事項等について各委員から意見・提言を受けた。

○ 9月の中旬までは全国的に気温が高く、猛暑日となったところもあり、記録的な厳しい残暑となっている。

9月までに発生した台風は少ないものの、台風が発生するフィリピン近海の海面水温が高い状況が続いているため、今後の発生もあり得る。

○ 登熟期全般が高温で経過した地域では、白未熟粒の発生が懸念される。また、登熟期後半で高温で推移している地域がかなりあり、胴割米やカメムシ類による斑点米の発生に伴う品質低下が懸念される。

○ 9月に東北、北陸地方で非常に降雨が多いことや草丈が長めとなっていることから、倒伏又は降雨による刈り遅れにより登熟歩合や品質が低下し、収量の低下の可能性はある。

○ 有機肥料等が増えてきているという情報もあり、施肥の回数や方法に関する情報も、今後の作柄を判断する上で必要である。

○ 今年の高温の影響は、栄養生長期間の短縮やもみ数不足に現れ、多照によるプラスの影響があまり見られなかったと思われるが、収量が平年を下回った要因について、もう少し様々な角度から調べていく必要がある。

○ もみ数と千もみ当たり収量、登熟歩合及び千粒重と品質との関係などの地域間差や栽培管理による違いを整理することにより、今後の水稻栽培技術を考える上

で貴重な資料が得られるのではないか。

- トビイロウンカの発生が予想されており、登熟不良や米の品質低下には留意する必要がある。

上記意見を踏まえ、委員会としての意見をまとめ、その場で了承された。

(http://www.maff.go.jp/j/study/suito_sakugara/pdf/opinion.pdf)

(参考)

○会議及び議事録を非公開とする理由

今回開催した水稻の作柄に関する委員会については、当年産の水稻の作柄に関して、学識経験者等から専門的な見地から意見を聴くために開催している。その内容は、個人・地域における水稻の品質、収量等に関する事項等、特定の個人若しくは団体に不当な利益若しくは不利益をもたらす恐れがある事項が含まれること等から、会議及び議事録を非公開としている。